えどがわの女性
vol.24
2015年
1月

「昔語りは生きている」

中野（なかの） ミツ（みつ）
1934年（昭和9年）
新潟県三条市生まれ、
東篠崎在住

越後弁で語る「雪ん子おせき」

平成13年に一之江名主屋敷で囲炉裏（いろり）語りの語り手募集があったんです。ちょうど梅雨時でしたね。その時、「方言で語りたい」って言ったら、「方言でもいいけどわかる言葉で語ってください」と言われました。「市川に住んでいる孫はわかります」と言ったら、「それならお願いします」って。

名主屋敷で最初に語ったのは、平成14年の秋ぐちでした。「むかし、あったてんがの。山の中の村に、子の無え爺さと婆さが、えったてがのし」から始まるんです。この話を最初に母親が語ってくれたのは、わたしが小学校にあがる前でした。冬ね、じいさんが雪の中から女の子を連れてきてかわいがったんですけど、春になってその子は死んでしまう話。だけど、その子には名前がなかったんです。それでわたしが「名前もつけてもらわねで死んでしまうなんてかわいそう。ああ、かわいそう」って泣いたんですよ。すると母親がね、「そんげん泣けば語らねど」と言うから、「この子に名前つけてくんろ」って繰り返したんです。そしたら、うちの田舎では冬のことを「せっき」っていうので、「おせき」と名付けてくれたんです。わたしが語る時には「雪ん子おせき」って言ってますが、わたしの昔語りの原点です。これを語る時、母親に語ってもらった時の情景が浮かんできて、今でも涙が出てくるんですよ。

名主屋敷の語りでは「食わず女房」「蛙婿（かえるむこ）」、夏の夜には怖い話など季節に合わせた話をしています。篠崎第三小学校のすくすくスクールでも語っていましたが、そこでは、子どもたちに「教科書でもマンガでも知っている話を語ってごらん」と言うと喜んで語ってくれましたね。4、5人の女の子たちと語りっこしてましたよ。

平成22年区立中央図書館で「尻尾（しっぽ）の釣り」を語った時に、日本口承文芸研究者の野村敬子先生とお会いしました。先生は、わたしが新潟県下田（しただ）村出身で、小さい時母親から聞いた話だと言うと、以前母と会ったことがあるということでとてもびっくりされていました。それがきっかけで「聴き耳の会」が誕生し、『江戸川で聴いた中野ミツさんの昔語り』（瑞木書房）が出版され、いろんなところから昔語りのお呼びがかかるようになりました。

故郷でしみついた昔語り

昭和9年1月に新潟県南蒲原郡（みなみかんばら）下田村葎谷（むぐらだに）（現三条市）で生まれました。父小林伊三郎、母ツギの3番目の子どもで「ミツ」。昭和15年には尋常高等小学校に入学しましたが、翌年12月には太平洋戦争が始まり、夏休みを削って、出征兵士の留守家庭のお手伝いをしました。子どもでしたから刈り入れた稲を運ぶとか、田植えの時は、ポーンポーンと苗を投げることしかできませんでしたが。

わたしは生まれつき足が悪かったので、分校に通うのは片道30分くらいでしたが、ゴム長靴もなくて特に雪の日は大変でした。戦争中でしたので、かけっこでも「戦地で頑張っている兵隊さんのことを思いなさい」と言われて休ませてもらえず、一人で最後まで走らされたし、ドッジボールでも一番にねらわれてね。ただ、本を読むことは大好きで、よく友だちから本を借りて夢中で読んでいましたし、学校でもよく教科書を読まされましたね。4年生の時には、学芸会で女の子を代表して昔語りをしたこともあったんですよ。

小学校3年生くらいになると、母親によく夜なべもさせられたの。縄を綯（な）って草履（ぞうり）作りしながらね、1本の縄で、耳だよ、顔だよ、足だよ、これは尻尾だよって母が作ってくれたんですよ。「縄が綯えれば作れるからね」って。そんなの親の「手」だなんて思わないで、一生懸命やっているうちに縄になってきちゃうもんですね。満足に縄が綯えるようになったら、母親がね、それをやれと言うだけだと子どもも嫌がるので昔語りをしながら藁（わら）草履作りしてたの。終わった時には、あれば甘酒、灰の中にもぐらせた芋、さつま芋や里芋、じゃがいもだったりするんだけどね。でも、焼きたてだったからおいしかったです。

足の悪いわたしは、畑や田んぼの仕事はできませんでしたが、うちの中で何かするのは好きでしたね。白い綿や晒（さらし）があると、丸めて顔を描いて人形を作るんですよ。それが面白くてこたつ布団のほころびたところに指を突っ込んで犬の顔を作ったこともありました。親たちが夜なべする時は、背中に赤ん坊の弟をくくりつけられて、いつまでも終わらないので、筵（むしろ）を2枚重ねてその間で寝たこともありましたね。

江戸川区聞き書き研究会

聞き書き研究会とは、江戸川区で生活し、江戸川区を愛し、強く逞しく生きた女性の姿を江戸川区女性センターの区民ボランティアが「聞き手」となって編集し、文書として残すための活動です。

昔語りは、母親の方が断然多いんですけど、春に父親が出稼ぎから帰って草鞋を作る時など、わたしが「おっかねえ話、してくんろ」って言うと、「そんな話知らねえ」と言いながらも語ってくれました。「馬になった坊さ」だとか「死人が踊る」とか。昔語りが大好きなわたしは、郵便屋さんが来ると「話聞かせろ」とまとわりついて、「郵便屋さんは仕事に来てるんだから」と祖父さんに叱られたこともありましたよ。

昭和21年3月に小学校を卒業し青年学校に入りましたが、新制中学ができると同時に青年学校は廃止され、学校に行ったのは1年くらいでした。その後は村の女子青年団「女子衆」の一員としてみんなとよく昔語りをやってました。

孫の枕元で「寝れたか、寝れたかや」

学校を出て5年くらいまでにほとんどの人は農家に里奉公して、運のいい人はそこで嫁に行ったりしましたが、足の悪いわたしは里奉公などできなかったです。

昭和27年18歳の時、千葉県印旛郡安食町の大叔父に世話してもらって、洋服屋に住み込みで働いたんです。「足が悪いから、手に職を付けた方がいいだろう」と言われて、ミシンの使い方から教わって、紳士服のズボン専門の職人になったんです。その後、小田原、世田谷、砂町、扇橋と移転しました。

主人と出会ったのは、映画館でした。扇橋の洋服屋にいた頃、仕事が早く終わって入った映画館の廊下で、越後弁をしゃべっている人がいたんです。「おめえ、どこの出だあ」って聞いたの。それから、偶然に出会うことが何回もあったんですよ。同じ新潟出身ということで、なんとなく気が合ったんですね。

籍を入れたのは昭和35年かな。11月には長女が生まれたんです。都営住宅の抽選申込みを毎月行い、3年目に新築に当たって今の東篠崎に越したんですよ。

越して6年目大阪万博の頃、小岩の洋服店の前をたまたま通ったら“仕立職募集”って貼り紙があったんです。それで、ズボンの内職の下請けとなりました。紳士服の仕事は60歳くらいまでやってましたよ。好きな御殿毬や藁人形作りなどは今でもやってますけど。

娘は市川の産院で助産師をやっていて、娘が夜勤の時はもうひとりの姑と交互に子守です。孫を寝かしつける時にね、3人の孫の枕元に座って昔語りをするんです。下の2人はすぐ寝るんですけど、小学生の子が「はあ、はあ」と興奮しちゃって寝てくれないの。今聞くとね、「ばあちゃんが語ってくれたお話、何かおまじないを唱えていて、おっかなかったよ」って言うからね。「もしかしてこんなこと言わなかったか、寝れたか、寝れたか、寝れたかや」って。孫にも越後弁一本でやってます。

いつまでも越後弁で

長男が4年生の時、「昔話ならできるよ」と言って学校で語ったら、恥ずかしかったのか「もう二度と語るな」と言われたの。ずっと我慢していたのですが、名主屋敷で語ったのをきっかけに語ることにしました。「聴き耳の会」では毎月、今は近くの老人ホームでも語っています。

江戸川区に住んでまるまる50年です。やっぱり、50年からいるとね、自分の故郷と同じですよ、ほんと。子どもの頃から、縄綯いをしながら聞いた話やいろんな人から聞いた昔語りは、体に浸み込んでいますね。東京に相当年月いますからね。やっぱり、関東なまりのある越後の言葉だとは思いますが、どうしても東京の言葉では同じ情景を語ることができないんですよ。

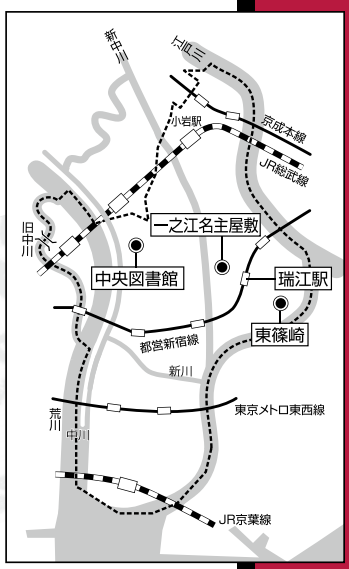
でも去年、田舎に行った時にすぐ下の妹に、「ここで使うよりも昔の言葉が残ってるよ」って言われたの。昭和20年代後半、しゃべっていたその当時の言葉を意識しながらやってるからだけど。妹は「今時、こんげな言葉でしゃべる人は誰もいないよ」って言うからね。言ってやったんですよ。「だってお前、昔ばなしだろ、今ばなしでなくて、昔ばなし語るんだよ」って。

◆名主屋敷で昔語りをする中野さん(一番左)2014年夏

一番大きな孫が音大を出てピアノをやっているんですよ。その子にちょっと歌っぽいのを入れて「曲付けて」と言うと、「ばあちゃんの語りはね、みんな同じだよ」って。「なんだ、それは」というとね、「どの話でも、同じ調子だから、どんな曲でも大きな違いはないよ」だって。

名主屋敷をはじめ、「聴き耳の会」、愛知の刈谷市、船橋、秋田の東成瀬村、川崎の日本民家園などで語ったんです。いろいろなところで語っていると、同じ話でも語り方は変わりますね。今語っているのは、今までに聞いた昔語りが大半ですが、なかには、聞いた話や読んだ本の中から選んで、越後の方言に置き換えて語ることもあります。

いつか孫のピアノ伴奏で、「むかし、むかし、あったてんがの…いちご、ぶらんとさげた」と語ってみたいですね。



◆ インタビュー／2014年5月
◆ 聞き手／吉野治子　小宮和枝
◆ コーディネーター／樋口政則

◆お問い合わせ◆
江戸川区女性センター
☎5676-2455(代)